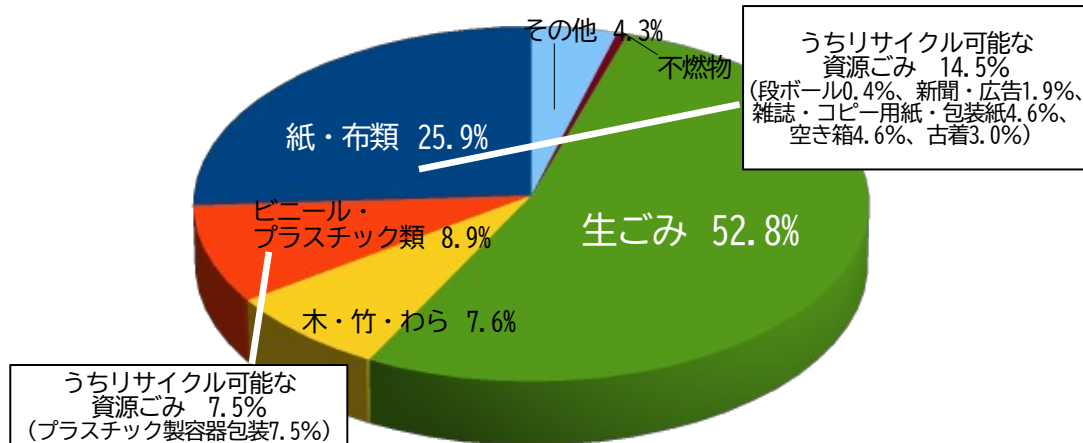


## ごみの分別・減量等における課題について

### 【課題 1】 資源化や減量化が不十分

○可燃ごみ組成（湿ベース推計値）からは、本市の家庭から排出される「生活系燃やせるごみ」と、事業所から排出される「事業系燃やせるごみ」の中には、資源化や減量化が可能な品目が多く含まれています。

#### (1) 生活系燃やせるごみの排出時点での組成（推計値）

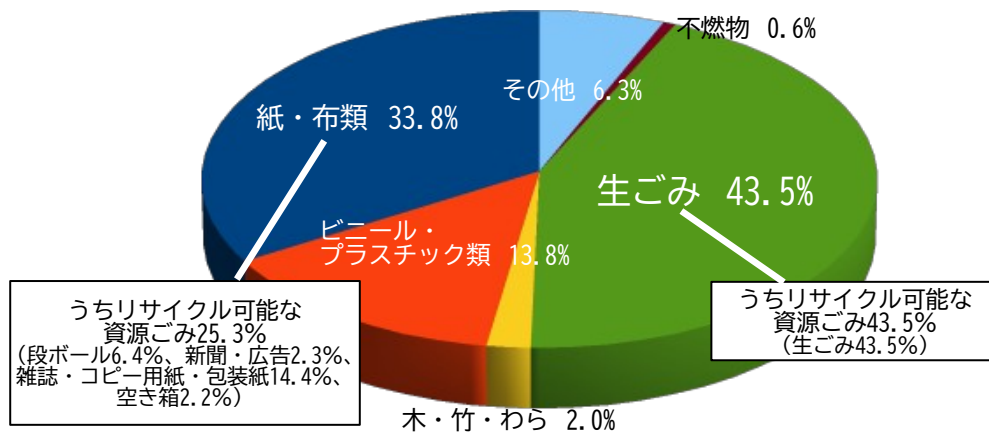


#### 【排出状況】

- 燃やせるごみのうち、生ごみが53%、資源物が22%（古紙11.5%、古着3.0%、プラスチック製容器包装7.5%）、剪定枝・刈草が4.3%であり、「資源物の分別」と「生ごみや剪定枝・刈草の減量化」により、大きく削減できる可能性があります。
- 燃やせるごみとして焼却されている資源物は、分別収集できている量と比較して、年間で古紙が約1倍、古着が約25倍、プラスチック製容器包装が約2.1倍あります。また、集団回収量との比較では、古紙が約2.5倍、古布が約370倍あります。

品目	燃やせるごみに含まれる推計量	分別回収量	集団回収量
古紙	2,876t	2,865t (1/1)	1,170t (2/5)
古着（古布）	750t	30t (1/25)	2t (1/375)
プラスチック製容器包装	1,876t	873t (1/2)	-

(2) 事業系燃やせるごみの排出時点での組成（推計値）



【排出状況】

- ① 燃やせるごみのうち、生ごみが44%、古紙が25%、剪定枝・刈草が2.0%であり、「生ごみと古紙の資源化」と「剪定枝・刈草の乾燥」により、大きく削減できる可能性があります。
- ② 燃やせるごみとして焼却されている資源物は、資源化できている量と比較して、年間で古紙が約0.6倍、生ごみが約25.5倍になります。

品目	燃やせるごみに含まれる推計量	資源化できている量
古紙	3,298t	5,247t (1.6倍)
生ごみ	5,671t	222t (1/25)

## 【課題2】 関心が低い方にも伝わる情報提供のあり方

- 従来からのごみカレンダーや市政だより、市ホームページでの周知啓発に加えて、令和3年9月からはごみ情報紙「へらすべえ」を発行し、より詳しく・具体的な内容で、ごみの分別と減量を啓発していますが、関心の低い方には、読んでいただけないことが課題です。
- ごみステーションでの立会いなどで、市民の方々の意見を伺う中で、ごみの分別に関心を持ち普段から徹底されている方がいる一方で、ごみの分別や減量に関心をほとんど持たない方も多く、ごみ減量に関心のある層と関心が低い層の二極化が見られます。
- 無関心な方へも伝わる情報提供のあり方、さらには、情報提供だけでなく、関心の低い方の行動変容を促す働きかけをどのように行っていくかが課題です。
- また、ごみの分別や減量の方法がわからない、調べ方がわからないという意見も多くあり、市民が分かりやすく、取得しやすい情報提供を行っていくかも課題です。

### 「家庭ごみの分別と減量に係るアンケート【一般市民・110件】

(R5.10.10時点とりまとめ)より

問7 ごみの分別と減量を推進するために本市に必要な取組 (○は2つまで)

No.	項目	回答人数 (回答者数110名)
1	ごみの分別や減量に関する周知啓発の強化	58人
2	ごみの分別や減量を推進する補助金・奨励金の充実	37人
3	事業系ごみ対策の強化 (適正排出や減量の指導など)	23人
4	分別収集する資源ごみの品目を増やす (刈草、生ごみ、プラスチック製品など)	22人
5	不適切排出への監視や指導の強化 (監視する、未分別のごみを回収しないなど)	19人

### 【課題3】 ごみ処理経費の抑制

- ごみ処理施設の設置、管理及び運営は、会津若松地方10市町村が共同で実施しており、その経費の負担は各市町村のごみ排出量の割合で決められています。令和5年度は、総額17.6億円のうち本市が11.6億円を負担しています。
- 本市は、人口では65.6%を占めますが、燃やせるごみは68.1%を占めているように、他の構成市町村より1人あたりのごみ排出量が多い状況です。

令和5年度 衛生費負担金 (千円)

項目	総額	会津若松市	
		金額	割合
一般運営費	1,166,918	752,062	64%
公債費	84,587	55,268	65%
積立金	504,053	352,981	70%
計	1,755,558	1,160,311	66%

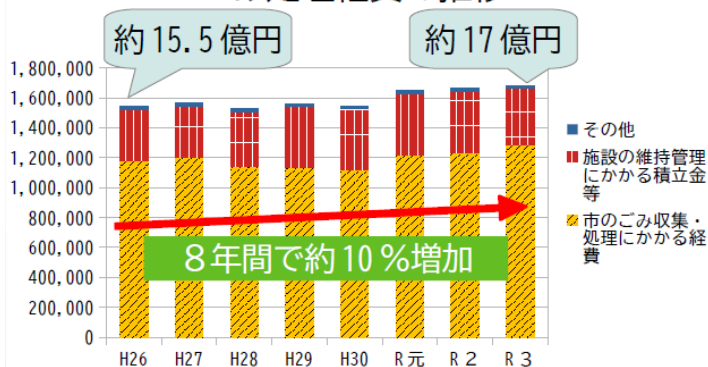
(一般運営費の内訳) (千円)

項目	総額	会津若松市	
		金額	割合
施設管理費	85,928	53,012	62%
し尿処理費	182,194	96,681	53%
塵芥焼却費	539,151	363,905	67%
塵芥破碎費	149,411	98,590	66%
最終処分費	172,092	116,342	68%
施設整備費	38,142	23,532	62%
計	1,166,918	752,062	64%

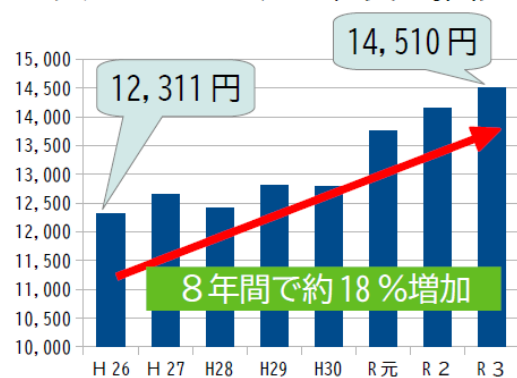
総額17.6億円中、  
会津若松市は11.6億円を負担

- ごみ処理経費全体についても、収集運搬費や施設整備費の増加により増加傾向にありますが、人口減少により「1人あたりごみ処理経費」が急激に増加しています。

ごみ処理経費の推移



1人あたりごみ処理経費の推移



- 将来にわたって持続可能な市民サービスを提供していくためには、ごみの削減によるごみ処理費用の抑制を行っていく必要があります。

#### 【課題4】 高齢者のごみ出し

- 社会の高齢化、核家族化、地域の繋がりの希薄化により、高齢者などのごみ出しが困難な世帯が増加しており、いかに支援を行っていくかが課題となっています。

##### 【社会的な背景】

社会の高齢化

核家族化

地域の繋がりの希薄化

##### 【課題】

ごみ出しが困難でありながら、必要な支援が受けられない高齢者が増加

① 無理なごみ出しを続ける  
↓  
生活上の負担、怪我のリスク

② ごみ出しができなくなる  
↓  
不衛生な住環境、ごみ屋敷

③ 不適切なごみ出しをする  
↓  
ごみステーションのごみ散乱

#### 【課題5】 ごみ・資源物ステーションの機能充実

- 本市では、ごみ・資源物ステーションは、町内会が設置・管理・運営することとなっており、合計4,102か所（ごみ2,490、資源物168、共用1,444）あります。
- 市では、衛生的で機能的なごみ・資源物ステーションの整備を行う町内会に補助金を交付することにより、ごみの飛散防止、美観の形成、利便性の向上を図っています。
- これにより、常設型では、屋根と扉があるしっかりとしたタイプや、仮設型でも、折りたたみ式のカゴの導入が進んでいますが、未だに、地面にそのままごみを排出するだけで、ごみステーションであることの表示もない場所などもあります。
- これらの場所では、ごみの散乱や通行人による違反ごみの投棄、さらには、住民による未分別のごみの排出が行われやすいといった課題があります。
- ごみ・資源物ステーションに、違反ごみの投棄や未分別ごみの排出があると、ごみ収集委託業者が貼り紙を行い、持ち帰りを促しますが、排出者が持ち帰らない場合には、町内会の役員などが分別しなおしてから再度排出するなどの対応を行っており、町内会の負担となっています。
- 市では、これまでも、ごみ・資源物ステーションに、ごみの分け方・出し方や排出日を示す看板を設置することを検討しましたが、財源確保の課題から実施できていない状況にあります。

## 【課題6】 資源化品目の拡大・細分化

- 資源循環型社会形成のためには、廃棄を減らし、再度、資源として循環させることが必要であり、ごみの分別・減量と再資源化が、基本的な取組となります。
- 本市は、家庭ごみの8種15分類での分別収集により、13品目の再資源化・再使用を行っています。

種別		分別	
1	燃やせるごみ	1	燃やせるごみ
2	燃やせないごみ	2	燃やせないごみ
3	古紙類	3	新聞紙
		4	紙パック
		5	段ボール
		6	その他の古紙（雑誌・雑がみ）
4	プラスチック類	7	ペットボトル
		8	プラスチック製容器包装
5	かん類	9	アルミ缶
		10	スチール缶
6	びん類	11	無色・透明びん
		12	茶色びん
		13	その他の色
7	粗大ごみ・リサイクル品	14	粗大ごみ・リサイクル品
8	古着類	15	古着類

- 燃やせるごみには、「生ごみ」や「剪定枝や刈草」など、資源化が可能な品目も多く含まれています。
- また、資源化品目を細分化することで、品質を低下させることのない再資源化（水平リサイクル）の可能性が高まります。例としては、プラスチック製容器包装やプラスチック製品を、プラスチックの種別（ポリプロピレン、ポリエチレン、塩化ビニールなど）ごとに分別し、再資源化することで、元の製品の原料とする取組などがあります。